

## CONTENTS

1. 全国一斉海浜清掃旗揚げ式(宮城県石巻市) \_\_\_\_\_ 1
  2. 環境・生態系維持・保全活動等調査事業  
①令和2年度海浜等清掃活動実施調査報告 \_\_\_\_\_ 3  
②令和2年度漁民の森づくり活動等調査報告 \_\_\_\_\_ 6
  3. 海と渚クリーンアップ活動(海浜清掃活動)報告 \_\_\_\_\_ 8
  4. 軽石群襲来に寄せて 一対処方法・除去の提案 \_\_\_\_\_ 12
- あとがき \_\_\_\_\_ 12

<http://www.umitonagisa.or.jp>

公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構

発行者 公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構  
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24 湯島ペアービル7F  
TEL 03-5800-0130 FAX 03-5800-0131  
E-mail info@umitonagisa.or.jp

Twitterフォロー  
お願いします



## 1. 令和3年度全国一斉海浜清掃旗揚げ式

日時：令和3年5月30日午前9時～10時 場所：宮城県石巻市長浜海岸

主催者：石巻市、(公財)海と渚環境美化・油濁対策機構、宮城県

「令和3年度全国一斉海浜清掃旗揚げ式」を宮城県石巻市長浜海岸で開催しました。昨年開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染対策のため、1年延期となりました。そのことを参加者の方と話す、「1年伸びたことで広報が浸透し、より多くの参加者が集まったと思う」、「コロナ感染拡大の影響で1年延期の上、結局中止では悔しいので、今年はどんな形でも開催してほしい」など前向きで力強い言葉をいただきました。

当日の天気は晴れ、朝8時に会場設定を行いました。風が強く、肌寒い位でしたが、9時の式典開始の頃には、風も落ち着いて、暖かな日差しの下で旗揚げ式を開催できました。

参加者は当初150人の予定でしたが、佐須浜、牧浜の参加者も含めて220人の方に参加いただきました。

司会は地元東日本放送のアナウンサーの方が務めてくれました。続いて主催者挨拶を地元石巻市の齋藤正美市長、宮城県水産林務部の



旗揚げ式には、いしびん(左)、むすび丸(中)、ぐりり(右)が応援に駆け付け、子供たちと式を盛り上げた。

佐藤靖部長がされ、その後に桑原智水産庁漁場資源課長、宮城県漁協寺沢春彦代表理事組合長他から祝辞を頂きました。地元の清掃活動2団体を紹介した後、当機構の専務理事から「令和3年度全国一斉海浜清掃の旗揚げ」が宣言されました。



旗揚げ式 清掃活動前の記念撮影





石巻市長は「震災後に整備された海岸にハマヒルガオ(写真)の花が咲いているのを見て、多くの人ののおかげでここまで復興できたと感謝の気持ちが湧き上がった。」と語った後、「花を踏まないように清掃して」と一言。

参加者には軍手、トンゴ、ゴミ袋が配布されました。清掃時間は50分程度。参加者はトンゴを上手に使用し、砂上のごみを拾うとともに、砂に埋もれたビニールひもも回収していました。



海浜清掃を行う参加者

清掃活動中、参加者の皆さんはペットボトルなど見慣れた生活ごみは黙々と拾いますが、漁具は見慣れていないのか、これは何だろうとトンゴを持った手が一瞬立ち止まっていました。

こうやって漁業系漂着物は実数以上に多くあるように感じてしまうのかなあと思いながら、フツと砂浜を見ると養殖用のロープと種ガキを集めるときに使用する1cm程度の管が目にとまりました。



海浜清掃に来ても下ばかり見ないで広い海も見よう!!



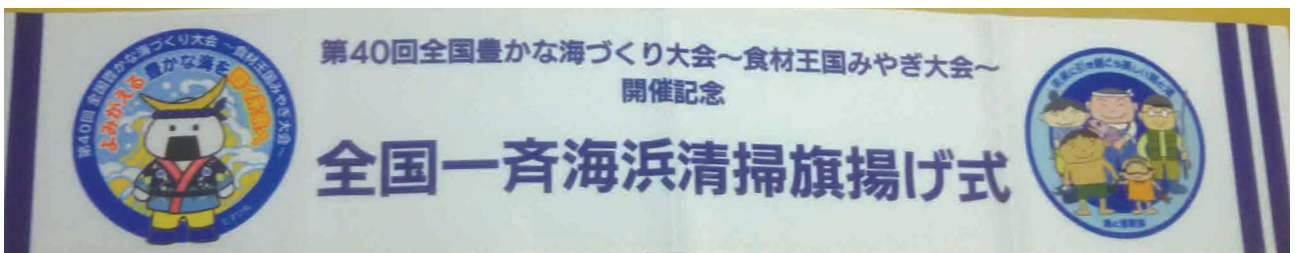
大きな漂着物もありました

震災直後の海ごみは家屋などの瓦礫が多かったそうです。震災後10年経った浜ではプラごみが目立つようになっていました。

回収したごみの量は、3つの砂浜を合わせて、可燃ごみ150袋、ペットボトル30袋、空き缶・空き瓶25袋でした。  
(福田)



本日の回収成果



参加者に配布したマフラータオル、(左)宮城県海づくり大会のロゴ、(右)当機構の「海と渚家族」が描かれている。

## 2. 環境・生態系維持・保全活動等調査事業

### ① 令和2年度海浜等清掃活動状況調査報告

平成9年度より行っている「海浜等清掃活動実施状況調査」の令和2年度報告書が完成しました。報告書の全文はホームページに掲載しています。<http://www.umitonagisa.or.jp>

#### 【報告書の概要】

「海浜等清掃活動実施状況調査」は、各都道府県に調査票を配布し、その回答を回収し集計する方法で行っています。内陸県を含む全国47都道府県に調査票を配布し、36都道府県から回答を頂きました。

#### 1 清掃回数及び清掃場所

清掃活動を実施した月別の実施回数と割合は図1及び図2のとおりです。

令和2年は、全国で延べ10,982回の清掃活動が

行われました。中でも6月～10月に集中しており、全体の6割近くを占めています。

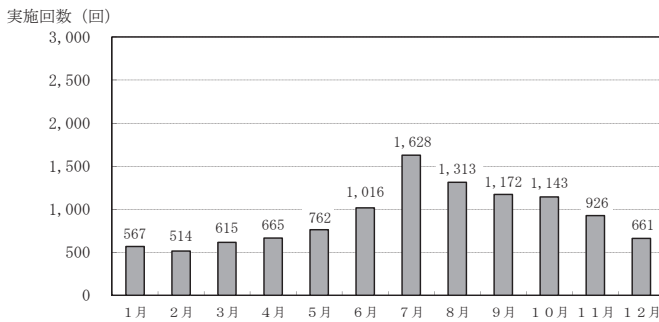


図1 月別清掃回数

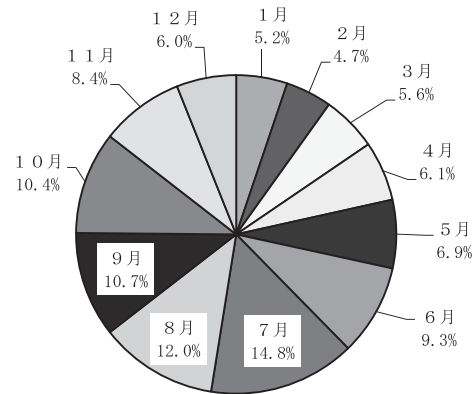


図2 月別清掃回数の割合

#### 2 主催者及び参加者

清掃場所別の清掃距離と参加人数を表1に、清掃場所別の参加者の割合を図3に、参加者1人あたりの清掃距離(延べ)を図4に示しました。

延べ参加者数は、約32万人でした。参加人数を清掃場所別にみると、海岸(約21万人)が全体の約2/3、河岸(約10万人)が全体の約1/3で、この2つを合わせると全参加者数の約98%を占めました。

延べ清掃距離では、海岸が9千836km、河岸が1千

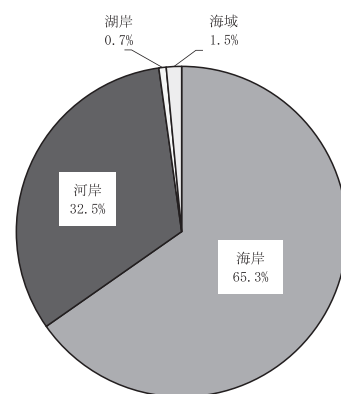


図3 清掃場所別の参加者の割合

表1 清掃実施場所別の清掃規模と参加者数

	全体	海岸	河岸	湖岸	海域	
参加者数(人)	318,143	207,673	103,444	2,283	4,743	
清掃距離(面積)	延べ距離(km)	10,963	9,836	1,012	115	—
	実距離(km)	10,521	9,829	594	99	—
	面積(km <sup>2</sup> )	1,508	—	—	—	1,508

12km、湖岸は115kmでした。海域での清掃面積は1千508km<sup>2</sup>(約40km×40km)でした。

また1人あたりの延べ清掃距離は、海岸で約56.5m、河岸で約22.2m、湖岸で約50.5mでした。

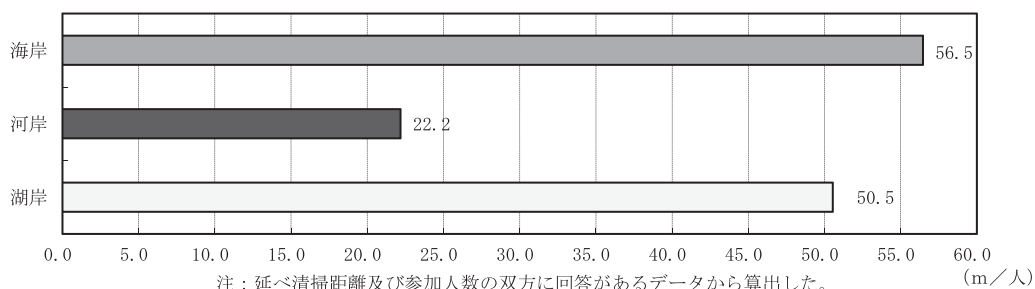


図4 参加者1人当たりの延べ清掃距離

### 3 ごみの回収状況

#### (1) ごみの回収量

ごみ回収量と場所別の割合を図5に、参加者1人あたりのごみ回収量を図6に1kmあたりのごみ回収量を図7に示しました。

ごみの回収量は、36都道府県で約3万9千m<sup>3</sup>でした。

場所別では、海岸が約3万3千m<sup>3</sup>と最も多く、次いで河岸が約3.4千m<sup>3</sup>で、この二つで全体の約93%を占めていました。

参加者1人あたりのごみ回収量は、海域が最も多く0.65m<sup>3</sup>、次いで海岸が0.17m<sup>3</sup>、湖岸が0.04m<sup>3</sup>となっており、最も少なかった河岸は0.03m<sup>3</sup>でした。

1kmあたりのごみ回収量は、海岸が最も多く約3.10m<sup>3</sup>/kmでした。

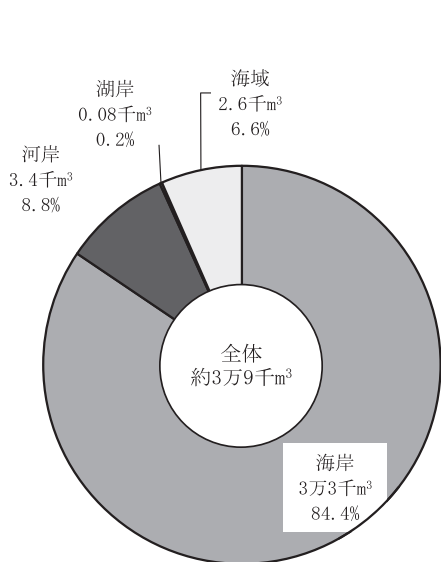


図5 ごみ回収量とその割合

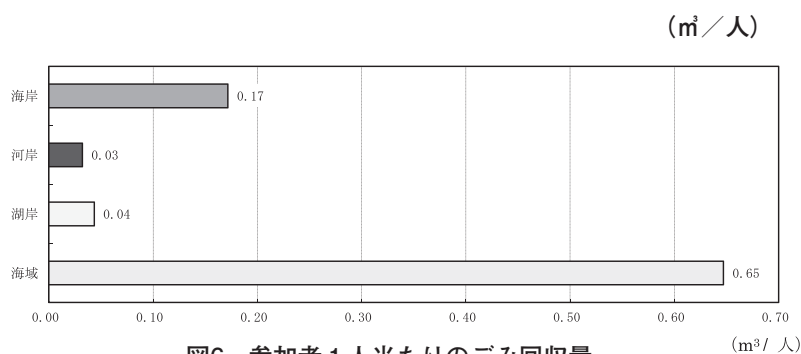


図6 参加者1人あたりのごみ回収量

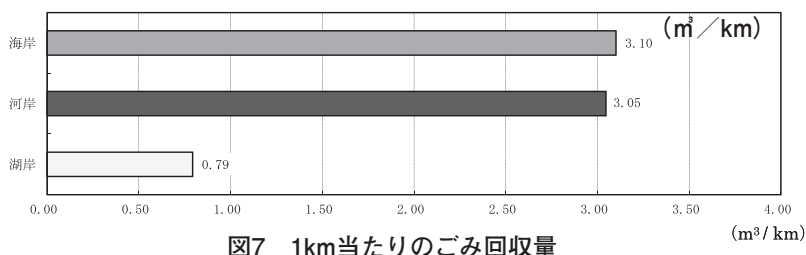


図7 1kmあたりのごみ回収量



## 4 ごみの種類

清掃を実施した場所別のごみ回収量及びその種類を表2に示します。

ごみの総量(容積)に占める人工物と自然物の割合はおおむね7:3です。内訳をみると、人工物では「フロート、ブイ」と「ペットボトル」が多く、自然物では流木が大部分を占めました。

場所別に人工物と自然物の割合を見ると、海岸では約7:3、河岸では約3:7、海域では10:0でした。

なお、今回の調査では、湖岸におけるごみの種類の把握をできませんでした。

表2 種類別回収量

単位: m<sup>3</sup>

種類	全体	海岸	河岸	湖岸	海域
布・紙	16 (0.3%)	12 (0.2%)	4 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
材木、木片等	145 (2.7%)	137 (2.8%)	4 (1.4%)	0 (0.0%)	4 (3.8%)
ペットボトル	833 (15.7%)	826 (16.7%)	7 (2.6%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)
弁当箱、トレイ	28 (0.5%)	28 (0.6%)	0 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ロープ、網	264 (5.0%)	260 (5.2%)	4 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
フロート、ブイ	1,010 (19.0%)	1,006 (20.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (3.4%)
缶類	81 (1.5%)	76 (1.5%)	5 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ガラス	15 (0.3%)	14 (0.3%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
人工物その他	1,269 (23.9%)	1,120 (22.6%)	53 (20.0%)	0 (0.0%)	96 (92.3%)
人工物計	3,660 (68.8%)	3,479 (70.3%)	78 (29.5%)	0 (0.0%)	104 (100.0%)
流木	1,492 (28.1%)	1,307 (26.4%)	185 (70.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
海草	42 (0.8%)	42 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
自然物その他	124 (2.3%)	124 (2.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
自然物計	1,658 (31.2%)	1,472 (29.7%)	185 (70.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	5,318 (100.0%)	4,951 (100.0%)	263 (100.0%)	0 (0.0%)	104 (100.0%)

注1:各欄の値は四捨五入しているため、人工物計・自然物計・合計はその内訳の合算値と一致しない場合がある。

注2:ここでのごみ回収量はごみの種類を把握している場合の集計値である。

## 令和2年度海浜清掃等の美化活動事例調査報告書(抄)

(報告書の全文はホームページに掲載しています)

清掃活動の主権者別割合を図8に、参加団体別割合を図9に示している。

清掃活動の主権者、参加団体ともに行政の割合が高く、主権者では44.9%、参加団体では36.1%を占めていました。また、自治会などの地域関係は主権者では24.5%、参加団体では25.7%を占め、行政に次いで大きな役割を果たしていました。

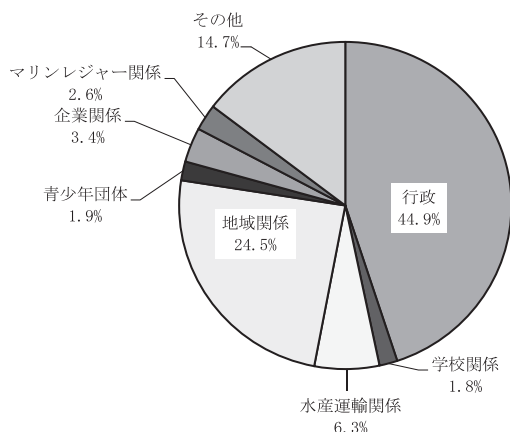


図8 主催者別の実施割合

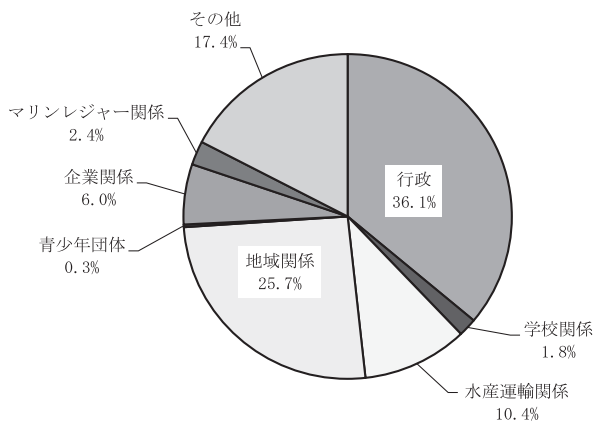


図9 参加団体別の実施割合

## ②令和2年度漁民の森づくり活動等調査

平成13年度より行っている「漁民の森づくり活動等調査」の令和2年度報告書が完成しました。

報告書の全文はホームページに掲載しています。<http://www.umitonagisa.or.jp>

### 【報告書の概要】

令和2年度は、66ヵ所(中止含む)から回答を得ました。この回答によれば、植樹活動では40種類程度(針葉樹6種を含む)の樹種が植えられていました。参加人数は延べ3,500人、植樹した本数は8千本程度でした。

表1でみると、植付けと答えた回答は、北海道が最も多く、次いで九州・北陸・中部・近畿の順でした。下刈りは九州で、地ごしらえは北海道からの回答が多く、その他の内訳では、消毒、チップ敷き、鹿防御柵修繕、ヨシ帯刈りの回答がありました。

コロナの影響があったため、昨年と比較すると、活動数は半分以下、樹種数は10種類程度減少し、参加人数は1万人から3,500人に減少しました。活動中止が19ヶ所、さらに当初から活動を断念した所もありました。植樹活動の場所については巻末の地図及び表を参照して下さい。

表1 各地域における作業の種類(複数回答)

	植付け	下刈り	地ごしらえ	つる切り	枝打ち	間伐	その他
北海道	13	1	5	0	0	0	1
東北・関東	4	5	1	1	0	0	2
北陸・中部・近畿	8	8	2	2	0	1	2
中国・四国	2	5	0	0	0	1	1
九州	9	12	0	1	4	1	2

### 1 漁民の森づくり活動で使用された樹種

植樹された樹種のうち上位10種は図1の通りです。

昨年はミズナラが最も多かった(29ヶ所)のですが今年にはクヌギが11ヶ所で最も多くなりました。これはミズナラを多く植えていた北海道内の活動が少なかったためです。

各地域で使用されている樹種図2に示しています。北海道ではヤチダモが4ヵ所、ミズナラが3ヶ所、そ

の他7種の報告がありました。本州では東北・関東はブナ、カシワ、ケヤキ、北陸・中部・近畿ではサクラ、ブナ、コナラ、そして中国・四国では5種が1ヶ所ずつでした。九州ではクヌギが7ヵ所、ケヤキが6ヵ所、ヤマザクラが6ヵ所でした。使用された樹種は北海道が9種、東北・関東が11種、北陸・中部・近畿が18種、中国・四国が5種、九州が14種でした。

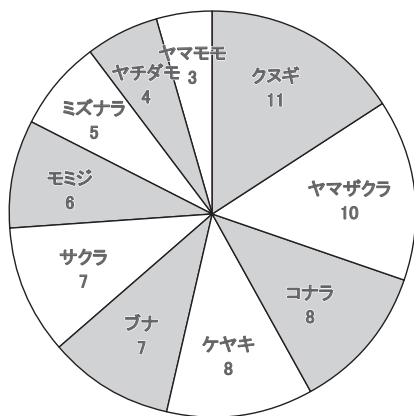


図1 全国の植樹活動で多く使用されている上位10種 (活動数であって、本数ではない)

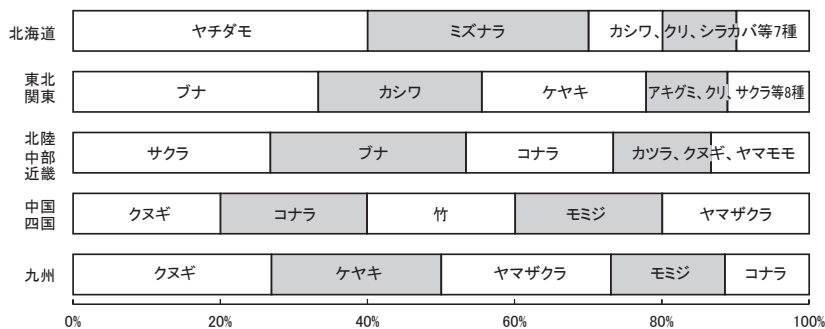


図2 各地方で植樹活動で使用される上位5樹種 (活動数であって、本数ではない)

## 2 漁民の森づくり参加者の漁業種類(複数回答)

図3に漁民の森づくり参加者が営む漁業種類の割合について示しました。

活動に参加した漁業者が営む漁業種類では、複数の漁業種数を営んでいる漁業者が全体の2/3、1種類の漁業者が全体の1/3でした。図3から、参加者が営む漁業種類をみると、主に沿岸で営まれる漁業種類が殆どでした。

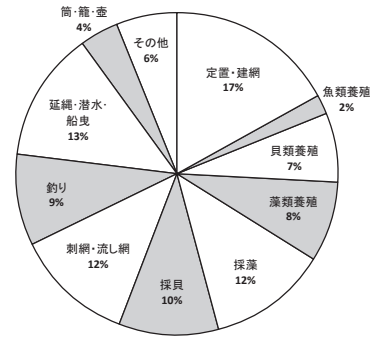


図3 森づくり活動参加者の漁業種類(複数回答)

## 3 令和3年度以降の漁民の森づくりについて

図4に来年度以降の漁民の森づくりの予定を示しました。

令和3年度以降の予定で見ると、「植樹はほぼ済んだので、下刈り等管理に力を入れていく」が最も多く27%、「植樹の他、下刈り等管理にも力を入れていく」を加えると50%を占め、植樹活動内容の中心が管理作業に移行している様子が伺われます。その他では、食害対策、水域環境保全活動、ヨシ帯刈り取り、競合植物の管理といった回答がありました。

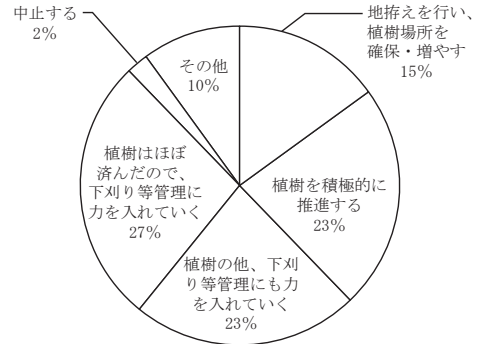


図4 令和3年度以降の漁民の森づくり作業予定について

## 4 漁民の森づくり活動で抱える現在の課題について(複数回答可)

「新型コロナウイルス感染収束」が24%と最も多く、令和2年度の活動数が例年の半分以下になった原因もこれが大きいものと思われます。次に「植林場所の確保」と「参加者の確保」が20%、「財源の確保」が18%でした。「植林場所の確保」では市有地の

用途変更ができるか検討中という回答がありました。

「参加者の確保ができていない」についてはその理由として、「漁業関係者の参加が減少傾向にある」、「新規参加者が減少傾向にある」が多く挙げられていました。

表 漁民の森づくり活動に携わる参加団体の構成について(複数回答可)

新規植林場所の確保が難しい	20%
活動財源の確保が難しい。	18%
植林場所の手入れができていない。	11%
参加者の確保ができていない。	20%
新型コロナウイルス感染の収束がはっきりするまで活動を自粛せざるを得ない。	24%
その他	7%

## 5 「4. 漁民の森づくり活動で抱える現在の課題」のうち最も重要な課題について(オは除く)(複数回答可)

4.で問いかけた内容に関して、「オ 新型コロナウイルス感染の収束がはっきりするまで活動を自粛せざるを得ない。」を除いた中で、最も重要な課題を質問しました。

その結果、「エ 参加者の確保ができていない。」が

34%と最も多く、次いで「ア 新規植林場所の確保が難しい」が28%、「イ 活動財源の確保が難しい。」が19%、「ウ 植林場所の手入れができていない。」が13%でした。

表3 漁民の森づくり活動で抱える現在の課題」のうち最も重要な課題について(オは除く)

ア 新規植林場所の確保が難しい	28%
イ 活動財源の確保が難しい。	19%
ウ 植林場所の手入れができていない。	13%
エ 参加者の確保ができていない。	34%
オ 新型コロナウイルス感染の収束がはっきりするまで活動を自粛せざるを得ない。	
カ その他	6%

# 3. 令和3年度 海と渚クリーンアップ活動(海浜清掃活動)報告

未来に残したい、美しい浜辺・青い海

\*全国から集まった海浜清掃活動報告の一部をご紹介します。  
<http://www.umitonagisa.or.jp/html/genchihoukoku.html>

皆さまからの海の羽根募金による寄付や会費に加え、日本財団からも助成金をいただきました。この資金で清掃資材(ゴミ袋)を下表のとおり、漁協、地方自治体、NPO等に配布いたしました。当機構にはこれらの活動グループからの報告が逐次寄せられています。これまでのホームページの掲載に加え、即時性を高めるため、ツイッターにも掲載しています。また、ハッシュタグを付けて地元の方、海外の方にも容易に見つけていただけるように工夫しました。どうぞ、ホームページに加えてツイッターでもご覧になって下さい。

Twitter <https://twitter.com/umitonagisa>

## 【清掃資材(ゴミ袋)配布実績】

(単位:万枚)

	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		大	小	大	小	大	小	大	小
自然物ゴミ袋	32(8)	33(8)	1.7	31(7.5)	0.7	23.6	0.7	18.5(11)	1.9
人工物ゴミ袋	21	22	1.8	20	0.8	15.8	1.9	15.5(11)	0.5
計	53(8)	55(8)	3.5	51(7.5)	1.5	39.4	2.6	34.0(22)	2.4

注:( )内の数字はJFマリンバンクからの提供枚数です。

平成30年度以降は小20L相当のゴミ袋も作成し、4種類のごみ袋を配布しました。大はこれまでと同じ大きさのごみ袋です。

## ■北海道

### 北海道漁業協同組合連合会

令和3年7月7日

活動場所 古宇郡漁協泊漁港

参加者 20人

ごみの量 自然物ゴミ 0袋

人工物ゴミ 20袋

コメント きれいに見えた漁港だったが、実際に清掃してみるとかなりごみがあった。ひとりひとりの心がけでは難しいが、人が集まれば成果がだせることがわかった。



### 湧別漁協前浜女性部

令和3年4月10日、5月8日、6月12日、7月

10日、8月7日

午後1:00~3:00

活動場所 湧別漁港

参加者 36人



### YU-PAL カヌー

令和3年7月10日

午前9:00~12:00

活動場所 湧別川

参加者 7人



### 神恵内村

令和3年7月9日

活動場所 神恵内村海岸部

参加者 12人

ごみの量 自然物ゴミ 30袋

人工物ゴミ 30袋





**浜中漁協女性部**

- ①榊町支部(36人)4月21日8:00~9:30、
- ②元琵琶瀬(29人)4月25日6:00~7:00
- ③川中琵琶瀬(15人)4月25日5:30~6:30
- ④1区(7人)5月10日8:00~8:40
- ⑤4区(8人)4月26日8:00~9:00
- ⑥水取場(11人)4月26日13:00~14:00
- ⑦暮帰別(5人)7月2日10:30~11:30
- ⑧奔幌戸(16人)4月25日7:00~8:00

- 活動場所**
- ①榊町漁港
  - ②③琵琶瀬漁港
  - ④⑤⑥⑦霧多布港
  - ⑧奔幌戸漁港

**散布漁協青年部**

令和3年4月25日 7:30~10:00

**活動場所** 火散布沼

**参加者** 9人



**上磯郡漁業協同組合  
元前浜船主連合会**

令和3年6月8日

**活動場所** 知内漁港(涌元地区)

**参加者** 45人

**ごみの量** 自然物ごみ 0袋  
人工物ごみ 20袋



**■秋田県**

**三種町商工観光交流課**

①令和3年6月16日

三種町建設業協会クリーンアップ

②令和3年6月28日

町・小中学校合同クリーンアップ

**活動場所** 釜谷浜海水浴場

**参加者** 400名

**ごみの量** 自然物ゴミ : 400袋  
人工物ゴミ : 150袋

**その他** 流木・海岸漂着物等

**コメント** 三種町釜谷浜では、毎年7月に海開きを行い、町の最大イベントであるサンドクラフトが開催される。

海開きを前に、町民自らの手で海岸をきれいにしようという事業。まず町建設業協会が重機を使用して巨大な流木等を含めたごみを収集、その後日、町民(各協力団体、小中学生等)による大規模クリーンアップを行う。



**■青森県**

**階上町 産業振興課 5月**

①令和3年5月9日

**活動場所** 階上海岸全域 5.5km

**参加者** 300人

**ごみの量** 自然物ゴミ 300袋  
人工物ゴミ 300袋



②令和3年6月4日

**活動場所** 階上海岸全域 5.5km

**参加者** 50人

**ごみの量** 自然物ゴミ 50袋  
人工物ゴミ 50袋



②令和3年7月13日

**活動場所** 階上海岸全域 5.5km

**参加者** 100人

**ごみの量** 自然物ゴミ 50袋  
人工物ゴミ 50袋

**下前漁業協同組合**

令和3年5月23日

**活動場所** 下前漁港地先

**参加者** 27名



**小泊漁業協同組合**

令和3年5月25日

**活動場所** 小泊漁港全域、一部海浜域

**参加者** 24名





### 小川原湖漁業協同組合

令和3年7月4日

活動場所 小川原湖畔全域

参加者 186名



### 野辺地町漁業協同組合

令和3年7月9日

活動場所 野辺地町目ノ越付近の海岸

参加者 76人



### 宮城県

#### 七ヶ浜町地域住民

令和3年4月20日から8月30日まで

活動場所 表浜海岸・菖蒲田浜海岸・小豆浜海岸・湊浜海岸・東宮浜海岸

参加団体 地域住民・SEASAW・七ヶ浜町花浜地区子供会・四国化成工業・ビーチバレー協会・あずきの庭・トリアスロン協会・商工会青年部・新仙台火力発電所・町議員同士会  
計566名



### 神奈川県

#### 小坪漁業協同組合

令和3年5月7日(金)10時から11時

活動場所 漁港内の各組合員の浜小屋付近

参加者 43名

コメント コロナの為集まらないで漁港内の各組合員の浜小屋付近を清掃しました。

### 新潟県

#### 上越プラネット

令和3年6月5日午前7時から8時

活動場所 虫生岩戸～居田海岸

参加者 630名

ごみの量 自然物・人工物ごみ 0袋  
その他ごみ 0袋

コメント 地域の自慢の海なので、全員で全力でごみ一つないようにしたい。

・海洋プラスチックが世界的な問題になる中、日本の取り組みはまだ遅れている。今後も活動を継続し、多くの人と一緒に環境保全に取り組んでいきたい。



### 糸魚川市

令和3年7月4日午前6時30分から1時間程度

活動場所 糸魚川市青海地域の海岸・砂浜

参加者 約2,000名

ごみの量 自然物ごみ 1,000袋  
人工物ごみ 1,000袋

コメント 改めて海にはたくさんの種類のゴミがあると感じた。海はゴミ捨て場ではない、海を利用する者が再認識する必要がある。気持ち良く海岸に来てもらうため、毎年参加したい。



### 富山県

#### 魚津漁業協同組合

令和3年7月23日(金)午前6時～8時

活動場所 魚津港周辺及び経田漁港周辺

参加者 約208名

ごみの量 自然物ごみ 15袋  
人工物ごみ 70袋

その他 200袋以上

コメント 感想:暑かったけどきれいになって良かった。



### 福井県

#### 若狭三方協同組合

令和3年6月6日(日)

活動場所 常神半島海岸線

参加者 149名

ごみの量 自然物ごみ 1,200袋  
人工物ごみ 500袋

その他 流木、藻類、ロープ等  
2.8トン

コメント 夏のシーズン前に海浜がきれいになってよかった。漂着ゴミの中にPETボトルなども多くみられた為、紙パックの飲料を購入するなど商品購入の段階で環境保護の意識を持ちたいと思う。



### 北潟漁業協同組合

①令和3年6月6日

②令和3年8月1日

活動場所 ①あわら市北潟海岸

②あわら市波松海岸

参加者 ①80名

②80名

ごみの量 自然物ゴミ 50袋

人工物ゴミ 150袋

その他 ウキ等車庫1戸分

コメント 波松海岸は老人会等で何回も行っているために少ないが、北潟海岸は年1回のためにとっても処理できない量になっている。県・国での処理が必要と思われる。



### 静岡県

#### 浜松市環境部環境政策課

令和3年5月9日

活動場所 遠州灘海岸 14か所

参加者 2,413名

ごみの量 自然物ゴミ 0袋

人工物ゴミ 1,103袋

コメント 感想:プラスチックごみの割合が多いことに驚いた。小さなプラスチック(マイクロプラスチック)が目についた。



### 戸田漁業協同組合

令和3年6月24日

活動場所 沼津市戸田御浜海水浴場一帯

参加者 85人

ごみの量 自然物ゴミ 28袋

人工物ゴミ 28袋

その他 流木軽トラック 5台位

コメント 漂流ゴミが多く、袋がすぐいっぱいになった。空き缶、ペットボトルも多く、マナーが守られていない感じだった。ゴミは捨てない、持ちかえるといった基本的な環境啓発活動が必要と感じた。

### 伊東市

令和3年5月30日

活動場所 伊東オレンジビーチ及びその周辺

参加者 471名



### 滋賀県

#### 滋賀県漁業協同組合連合会

令和3年7月1日(日)7時から12時

活動場所 沿湖漁協33組合の漁港を中心に琵琶湖湖岸等

参加者 1,325名

ごみの量 自然物ゴミ 107.5トン

人工物ゴミ 49.9トン



### 福岡県

#### 福岡有明海漁業協同組合連合会

令和3年8月18日 午前7時~10時

活動場所 福岡県有明海沿岸域神半島海岸線

参加者 1,125名

ごみの量 自然物ゴミ 59.14t

人工物ゴミ 4.06t

その他 2.30t

合計 65.50t40袋

コメント 「去年に比べてゴミの量が少なかった。」「大きなゴミ袋じゃないと回収できないゴミがあった。」等の意見があった。



### 大分県

#### 大分県漁業協同組合白杵支店

令和3年7月22日 午前7時~12時

活動場所 海域全域 38km

参加者 480名

ごみの量 自然物ゴミ 4,820kg

人工物ゴミ 5,620kg





## ■大分県

### 水辺に遊ぶ会

令和3年5月23日(日) 9:00~10:00

活動場所 中津市大新田海岸

参加数 186名

ごみの量 燃えるごみ 120kg  
燃えないごみ 30kg  
粗大ごみ 70kg



## ■宮崎県

### 外浦漁業協同組合

令和3年8月1日 午前7時~

活動場所 みなとの森公園周辺・夫婦浦港・外浦港

参加者 115名

ごみの量 自然物ごみ 40袋

コメント 栄松前海岸一帯の流木撤去及び除草作業

自然物ごみ 2トン車2台

軽トラ3台

人工物ごみ・その他ごみ 軽トラ1台



## ■熊本県

### 熊本県漁業協同組合連合会

令和3年8月18日

活動場所 漁港等 全14拠点

参加者 14拠点合計2,403名

コメント 海岸の流木等は8月の大雨により漂着したゴミ流木が多いので海岸管理者に依頼している。



## 4. 軽石群襲来に寄せて —対処方法・除去の提案—

10月に沖縄県や鹿児島県の漁港、港湾に漂流・漂着が確認された軽石の回収除去方法について、当機構では24年前に日本海で発生したナホトカ号油流出事故の回収に当時海上災害防災センターの現地責任者であった当機構の佐々木専門家の知見と具体的な回収方法の案をまとめ、10月29日に当機構のホームページ(<http://www.umitonagisa.or.jp/html/bika.html>)に掲載するとともに、水産庁他関係機関に情報提供しました。11月16日には東京の島しょ部でも漂着が確認され、千葉県も対応に動くなど、軽石の脅威は関東にも及んできています。11月16日、国の「第2回漂流軽石回収技術検討ワーキンググループ」では、効率的な回収方法を取りまとめるとともに、回収方法についてのアイデアを広く募集しています。

一方、沖縄県では回収した軽石の置き場に困っているようで、効率的な回収とともに回収後の取り扱いも新たな問題として浮き彫りになってきています。あらためて自然の恐ろしさに気付かされます。

### あ と が き

令和3年もコロナを気にしながらの仕事が続きました。宮城県石巻市で開催した旗揚げ式は感染対策をしながら実施しました。海浜等の清掃活動や漁民の植樹活動も活動回数や参加人数が大きく減少しています。早くコ

ロナが収束してほしいものです。当機構は今年6月に坂本幸彦新専務が就任しました。新体制で海洋環境保全に取り組んでいきますので、引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。(福田)

